

## 社会福祉法人稚内市社会福祉事業団 平成30年度事業報告

介護保険・障害福祉サービスの報酬が増額改定となり幸先の良いスタートとなりましたが、今後更にサービスの質や職員の専門性が評価される成功報酬制に移行することに留意しまして、初心を忘れることなく真心をもって任務に当たることを意味する、『万能一心』を年度スローガンとして掲げまして下記のとおり取り組みました。

まず、年度当初に実施した新任職員研修を皮切りに、全職員対象の「介護実践基礎研修」や「障がい基礎研修」の開催のほか、各施設・事業所のチーム力の向上、また、法人経営理念の具現化と組織力の向上を目的とし、役職職員を対象にした「リーダー研修」を前年度に引き続き実施したほか、介護福祉士の受験要件である介護福祉士実務者研修を札幌の専門学校に依頼協力し、地域住民の一般受講も受け入れ当法人内において開講しました。経費と時間そして何よりも勤務に大きな影響も生じないことから、法人からは職員11名が受講することができ、これから実務経験を積み受験に向けて期待されます。ちなみに、平成30年度介護福祉士試験合格者は6人、社会福祉士試験合格者は1人でした。

9月6日早朝に発生した北海道胆振東部地震では、地震被害は無かったものの約2日に及ぶ長時間停電を経験しました。その後に行った「自然災害を想定した図上訓練」をはじめ、次年度に向けた各施設・事業所「施設・設備等整備計画」の更新や事業計画にもその教訓を反映した内容としまして、今後の災害対応力の高い施設づくりに向けて準備しました。

社会貢献事業においては、例年実施の「わが町への感謝活動」をはじめ、地域住民を対象とした「介護者を支える集い」や、初開催の介護の総合窓口「生活支援・介護予防カフェ『つどい』」の開催、また、交通安全宣言事業所として「チャレンジ・セーフティラリー2018」や、認知症啓発キャンペーン「RUN伴2018」タスキリレーへの参加と、北海道社会福祉協議会の全道の法人が連携、協同できる地域公益的活動事業である、「災害時における社会福祉法人・施設協働による入所者・要援護者等支援事業」に参加致しました。

そして、地域の貴重な社会資源として施設規模を維持し、事業継続するに最も必要である人材確保については、ハローワークをはじめ関係機関、職員の紹介等を受け、多職種全体で18人を雇用することができ、家族の転勤や定年・雇用期間満了により退職された職員の補充確保が叶いました。

特別養護老人ホーム事業、従来型富士見園におきましては、長期入所では持病の状態悪化などが理由による入院者が前年より4割ほど増加したことや、継続入院や死亡による退所も33人と昨年のほぼ倍近くあり、ベッド稼働は目標より低い結果となりました。しかしながら、短期入所では、入院による長期入所の空床ベッドを転用し様々な利用ニーズに応え受入れに尽力した結果、目標を大きく上回るご利用をいただくことができました。また、ハード面の整備では三期に分けて実施の園舎の外壁等大型修繕工事の最終期（東側面と中庭、屋根部笠木改修）を迎え、当初の予定どおり工事を終えまして安全性と居住性、そして美観の向上も含めて建築物としての延命を目的に実施することができました。

ユニット型富士見園におきましては、開園から5年目を迎えて入居者の身体状況の変化が主な理由による入院者が前年より2割ほど増加し、また、長期入院などが理由で6人の退所があり、入居者の異動のあった一年となりましたが、家族や医療機関との連携など早め対応に心がけた結果、ベッド稼働は昨年を引き続き目標を大きく上回り、本市の貴重な社会資源として高い利用率を維持することができました。また、園舎や外構周囲のメンテナンスの実施と、市指定の福祉避難所として当該市から納められた避難用具のほか、停電を想定して照明器具やストーブなどを購入し有事対応の強化を図りました。

養護老人ホーム富士見園におきましては、7月のA重油地下貯蔵タンクの漏洩事故では、関係機関をはじめ多くの皆様にご心配をお掛けしました。幸いなことに地域の皆さんにはご迷惑をお掛けすることなく、また、暖房を要する季節ではなかったため入所者皆さんへの直接的な生活障害はありませんでしたが、当該事故を教訓に事故のあった地下タンクは廃止し、漏洩予防を最大の理由に屋外設置型のステンレス製タンクに変更するとともに、当該施設のみならず法人内すべての施設・事業所の管理体制、また、部署内、業者間との牽制体制の在り方を再点検し、再発防止に努めております。

入所状況では、重介護を要する方が増え入院の増加や退所も多く、利用率は目標を下回る結果となりましたが、一人ひとりの心身の状況を日常の中で把握し、特別養護老人ホームなどその方の心身の状況にあった施設の紹介をはじめ、養護老人ホームとして自立生活に向けた様々な活動・支援に意を注いでまいりました。

デイサービス事業におきましては、様々な利用目的や希望に可能な限り対応した結果、富士見園、潮見園とも昨年を大きく上回る利用実績となりました。また、この度の法の改正におきましては、事業実施効果への期待の見直しが大きくされたサ

ービスといえます。この事業は当法人が設立された平成元年に策定された「ゴールドプラン」（通称、高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略）の在宅福祉対策の推進事業のひとつとして誕生したもので、介護が必要になっても自宅や住み慣れた地域での生活が継続されるように、在宅福祉サービスの推進における支柱事業として介護者の心身のリフレッシュも目的とし、入浴サービスや一時預かり（レスパイト）が特色とされてきましたが、今後は身体機能の維持と向上を目的とした取り組みに対する期待が強くなり、専門的な視点に立った支援が報酬加算として評価されることとなりましたので、事業所や従事者には意識改革が求められた改正となりました。

早速、富士見・潮見両園共に次年度からの評価取得に向けて、日常生活動作の維持・向上のプログラムの作成と支援に取り組みましたが、一年を通した対象者の変動が起因し加算取得の要件である前年実績の獲得に至りませんでした。しかしながら、今後こうした取り組みが間違いなく事業所の利用選択肢となることは明らかであり、継続した取り組みと情報収集に心掛けると共に、多様化する利用ニーズの動向に注視してまいります。

居宅介護支援センター潮見園、東地区在宅介護支援センターにおきましては、相談支援、介護支援計画作成機関として、稚内市包括支援センターをはじめ市内の居宅介護支援事業所や医療機関などの関係機関との連携に心掛け、相談者やその家族などの生活の質が損なわれず、各々の望む日常となるように親身な対応に努めました。

就労継続支援B型事業所 稚内市北光園におきましては、通所利用率は利用者の増加に伴い利用の安定が図られ、前年度より大きく上回る実績となりました。また、働く場の環境整備の一環として老朽化していた利用者用トイレなど水回りを一新しました。

クリーニング事業では、取引先の企業努力や対象商品の規格変更による予定単価の減額などにより目標収益を下回る結果となりましたが、新たな取引先の開拓と次年度の消費増税などを勘案した設定料金の値上げに向けた準備や、作業効率と安全な作業環境に配慮しまして、業務用中型洗濯機の更新と汚物除去室を新設しました。

水耕栽培事業では、栽培機能をフル稼働させ高まる小売店の需要に応えるため利用者、職員が日々奮闘した結果、当初の予定収益を若干ではありますが上回ることでできました。当工場栽培の「ひかり菜」は路地ものが流通しても需要が落ちることなく、取引先担当者からはブランド野菜として定着してきたとの評価もいただくことができました。また、今後予定しています工場の拡張、増産体制（年間収穫量

を3 tから8 tへ)に向けて、利札両離島をはじめ幌延町、豊富町、枝幸町の宗谷管内、そして名寄市、士別市の上川北部へと販路エリアを広げ営業活動を行いました。

共同生活援助事業所スマイルらいふ グループホームにおきましては、予定していました男性棟グループホーム敷地の一部舗装化を早速行い、特に下肢が不自由な入居者の歩行に有効性ある工事となりました。また、ホーム内の手すりの設置補強や各所汚れた内壁クロス修繕、備品・生活調度品の更新など、より快適なホーム生活となるように配慮しました。

入居状況は、4月より男性棟の10定員は満室となりましたが、女性棟5定員が一室空いたままであり、次年度は各種関係機関へのPRとあわせ、将来的な入居に繋がるようにB型北光園の実習生の体験利用など、積極的な運用に努めてまいります。